

副鼻腔内視鏡手術中にくも膜下出血を発症した事例

キーワード：副鼻腔内視鏡手術、くも膜下出血

1. 事例の概要

40 歳代 男性

全身麻酔下の副鼻腔内視鏡手術中に突然血圧が上昇し、その後瞳孔が異なる。緊急 CT によりくも膜下出血が疑われ、転院して治療するが 12 日後に死亡。

2. 結論

1) 経過

本患者は好酸球性副鼻腔炎の診断の下、嗅覚障害および鼻閉改善の目的で、全身麻酔下左内視鏡下汎副鼻腔手術、両側下鼻甲介粘膜切除術が行われた。

2) 死因

死因はくも膜下出血である。くも膜下出血は左内頸動脈の破綻（解離の疑い）によって起こった。

3) 調査及び評価の結果

医療行為は妥当であり、死亡との因果関係は推測し難い。本症例のくも膜下出血は予期し得ぬ疾病の発症と考えられ、発症直後から脳に重篤な不可逆障害が生じ救命は困難であったと考えられる。

3. 再発防止への提言

不幸な事例ではあるが、本症例のくも膜下出血を回避する手段はなかった。極めて稀な事例ではあるが、同様な症例を集積すれば危険因子を推測できることもあり、学会発表等を含めて公表し、広く注意喚起することは意味があると考えられる。

(参 考)

○地域評価委員会委員（11 名）

総合調整医 / 評価委員長	日本内科学会
解剖担当医	日本病理学会
解剖担当医	日本法医学会
臨床立会医	日本麻酔科学会
臨床立会医	日本麻酔科学会
臨床評価医	日本耳鼻咽喉科学会
臨床評価医	日本脳神経外科学会
関連診療科協力医	日本病理学会
法律関係者	弁護士
総合調整医	日本病理学会
調整看護師	モデル事業地域事務局

○評価の経緯

地域評価委員会を 6 回開催し、その他適宜意見交換を行った。